

世界の国からDo you 農業？ ～世代・国籍を超えた農業社会の実現を図り、農業の生涯学習化を目指す！～

吉良 健太郎¹・内田 育実²・松村 翔太³・西川希美⁴

¹菊池市役所 政策企画部 市長公室 参事

²菊池市役所 市民環境部 税務課 主事

³菊池市役所 政策企画部 企画振興課 主事

⁴菊池市役所 建設部 土木課 主事

1. はじめに

菊池市の基幹産業である農業の継続と景観の保全のために、中山間地域へ新規就農者や海外からの就農者を増やす政策を提案します。具体的施策としては、（１）農業への関心を高める施策、（２）学べる場を創出する施策、（３）菊池で農業を実践する施策です。

一つ目の施策は、中山間地域での農家民泊やワーキングホリデーを通じて、日本の生活や農業を体験してもらい、農家の関心を高めます。

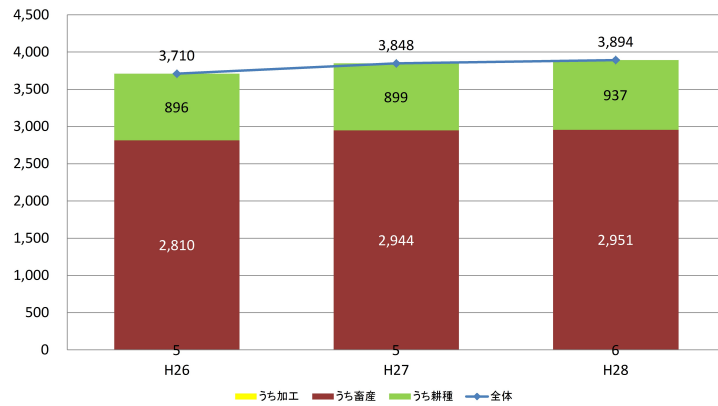
二つ目の施策は、菊池市に農業経営塾を開設し、農業経営塾を通して、農業を実践できるだけのノウハウや経営力を身に付け、中山間地域の文化や風土を理解し、生活ができる人材の育成を目指します。

三つ目の施策は、菊池市で農業を実践できるように、居住、農地、販路の支援を行います。

2. 政策提言の背景

菊池市は、豊かな水資源と肥沃な大地を活かした農林畜産業を基幹産業としており、平成28年の農業産出額は、全国第17位（県内第2位）となっており、畜産部門で全国第4位（県内第1位）の畜産規模を誇ります。

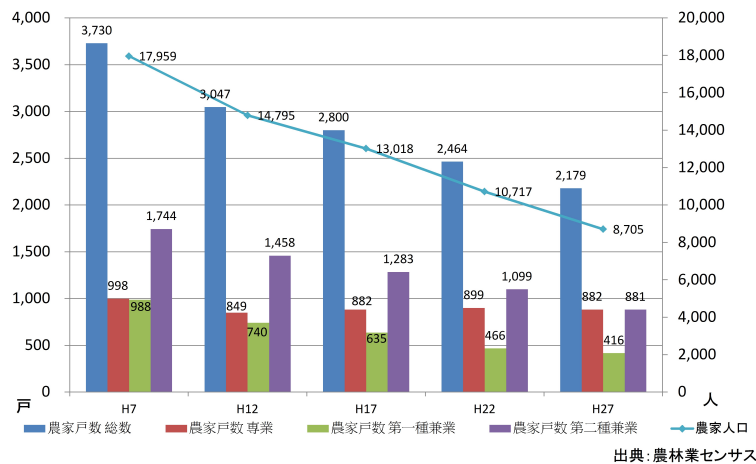
農業産出額(推計含む)の推移



資料:農林水産省市町村別農業産出額

現在、全国的に農業人口が減少しています。菊池市においても、農業従事者数が年々減少しており、農業の継続が厳しい状況になりつつあります。

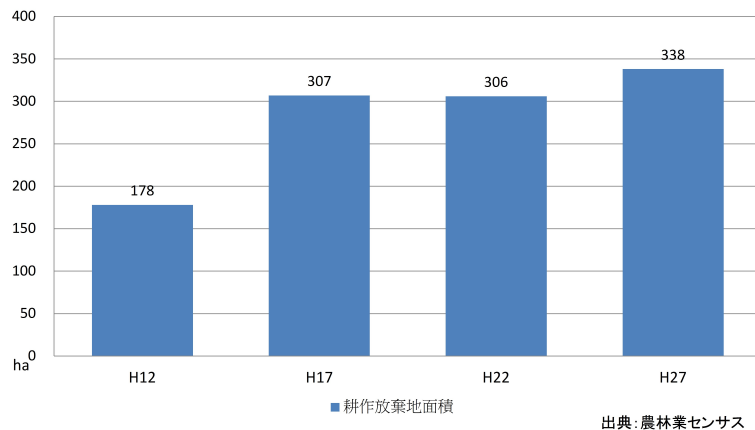
農家戸数・農家人口の推移



出典:農林業センサス

また、農村（中山間地域）は、農業の持つ多面的機能の発揮の場となっており、食料を供給する機能だけでなく、農業生産活動を通じ、国土や水源の保全、生物多様性の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、様々な機能を有しており、このような多面的機能の効果は、農村地域の住民だけでなく国民全体が享受する公共財としての役割を果たしています。しかし、農業従事者が減少することによって、耕作放棄地が増え、菊池市の景観を損なっている状況です。特に、中山間地域では耕作放棄地率が高い傾向にあります。また、高齢化率も高く、農家の担い手が不足している状況にあります。そして、荒廃した農地が増えることで、土砂崩れ等の被害発生にもつながる可能性があります。

耕作放棄地面積の推移



3. 政策提言によって解決したい課題

これから社会に出る若者たちや外国人が日本での生涯に渡る仕事として、農業を1つの選択肢とした場合、そもそも、「農業自体に興味がない」、また、興味を持ったとしても「どうしていいかわからない」、農業のことがわかって「生活していく自信がない」という状況があり、このことが新規農業従事者の不足につながります。担い手が不足することで、将来的に菊池市の農業が継続できない状況になるため、若い新規農業者や海外からの農業者を増やす必要があります。そして、特に高齢化による農家の担い手不足や農地の荒廃の問題を抱えている中山間地域への新規就農者を増やすことで、耕作放棄地の解消による景観の保全や農家の担い手確保につなげます。そこから農業を生きがいとしたライフワークの形成を図ります。

4. 課題解決策の特徴、重要性、有効性

(1) については、農家民泊やワーキングホリデーを通じて、菊池市の中山間地域での生活や農業を体験してもらいます。熊本県では、くまもと農人プロジェクトを通して、地域の生活や農業を通じた交流を行っています。菊池市でも、地元農家や地域の協議会と連携しながら、農家民泊やワーキングホリデー、就農体験ツアーの取組を行っています。それらの取組を通じて、菊池市の中山間地域の生活や農業を体験してもらうことによって、農業の関心を高めることができます。



写真1：農家民泊パンフレット



写真2：菊池市でのワーキングホリデー

(2)については、農業技術や経営ノウハウを学べる農業経営塾を菊池市に設立します。対象者は、農業経験は問わず、誰でも受講することができます。ただし、外国人農業希望者は一定の日本語力が必要です。農業経営塾を通して、農業を実践できるだけのノウハウや経営力を身に付け、中山間地域の文化や風土を理解し、生活ができる人材の育成を目指します。農業技術やノウハウの指導は、菊池市内在住ですでにリタイアした元農業従事者が指導を行います。また、カリキュラムとして、中山間地域の農家に一定期間滞在し、農業の実践や生活体験を行い、その地域の行事や活動にも積極的に参加してもらいながら、農業実践力の向上と中山間地域の風土や文化への理解と地域交流を図ります。経営ノウハウの指導は、菊池市と協定を結んでいるAFJ(アグリフューチャージャパン)が運営している農業経営大学の講師を招いて講義を行います。農業経営塾は、世代や国籍を問わず、誰もが農業を学べる場であり、多様な人との交流を図りながら、実践的な農業者を育成できます。また、農業経営塾での農業ノウハウの指導にすでに農業をリタイアした高齢者が携わることで、農業ノウハウが伝承でき、生涯に渡って農業に携わることができます。



写真3：AFJとの連携による農業経営セミナー

(3)については、菊池市で農業を実践する上での住居や農地、仕事、販路の支援を行います。まず、住居については、菊池市の空き家バンク制度を活用し、住居の支援を行います。また、農地については、農地バンクくまもと等を活用し、農用地の貸付等を行います。そして、販路のひとつとして、市役所に食堂を作ります。食材は、農業経営塾出身の農家で生産された食材を使用します。さらに、外国人農業者が生産した食材を使用し、世界各国の料理を学校給食として提供します。空き家バンクや農地バンクを通じて、空き家や耕作放棄地の解消が図られ、景観の保全につながります。そして、市役所食堂や学校給食に農産物が使用されることで、販路の確保と自身の農産物のPRにつながります。

経営塾出身者の将来像としては、青年等就農計画制度を利用し、認定新規就農者となることで、専業農家として生計を立てていくことが挙げられます。さらに、近年注目されている「半農半X」というライフスタイルを菊池市の中山間地域で確立することも将来像として挙げられます。これは、自分や家族が食べる分の食料は小さな自給農でまかない、残りの時間は「X」、つまり自分のやりたいこと(ミッション)に費

やすという生き方です。「X」にあたる部分は人それぞれであり、たとえば、農的生活をしながら市役所食堂で営業する「半農半市役所食堂」や、外国人であれば母国語を活かし、近所の子どもたち等に英語を教える「半農半ティーチャー」等があります。

5. まとめ

期待される効果として、若い農業希望者や外国人農業希望者が農業経営塾でノウハウ等を学び、農業に従事することで農業の担い手が確保され、菊池の農業が維持できるようになります。また、農業従事者が増えることで、空き家や耕作放棄地が減り、美しい景観が保全されるとともに、災害等の被害軽減にもつながります。さらに、農業経営塾でノウハウ等を学び、農業に従事しながら菊池市で生活をする人が増えることで、菊池市への移住・定住にもつながり、人口増加にも寄与します。

参考文献

- 1) 農林水産省「農林業センサス」
- 2) 農林水産省「市町村別農業産出額」
- 3) 塩見直紀：半農半Xという生き方 実践編，株式会社ソニーマガジンズ，2006